

Title	私の本棚
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2020
Jtitle	新版 窮理図解 No.33 (2020. 3) ,p.7- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000033-0007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

私の My favorite books 本棚



● 三島由紀夫の本たち

子供のころ、家の近くに移動図書館（小さいバスの中に本棚が取り付けられた図書館）が来ていて、気に入った本を限度冊数まで選ぶのが楽しみでした。今でも本は乱読で、直感で選び、読み終わったら誰かにあげる、というような感じです。今たまたま手元にあったのが、三島の本というそれだけの理由ですが、三島の文調は好きです。

● パスカルのパンセ

私の人生の中で最も大切な一冊です。パスカルは、ご存知の通り、「パスカルの定理」で知られる数学者・物理学者であると同時に、「人間」の存在の本質を深く見つめた哲学者・神学者でもあります。「パンセ」の中でよく知られたフレーズの一つに「人間は考える葦である」がありますが、私が最も好きな箇所は、この直前の一節、「人間はひとときの葦にすぎない。自然の中で最も弱いものである。」の部分です。人間工学/ヒューマンファクターズの研究では、しばしば、強力な科学技術上のツールを使って人間について解き明かそうとしますが、一方で人間は自然の中でゆらゆらと揺らぐ不安定な存在であり、因果律に当てはめて説明することなど本質的にはできないものであるということも心に留めています。

であるからこそ、生活をもっと良くしようとする人たち、また仕事をよりやりやすくしようとする人たちの実際を、揺らぎも含めて現場^{つばさ}に見聞きし、本音の課題に対して一歩前進できる策を提供できるような研究を続けていきたいと思っています。

そしてまた、私自身も様々な大風大波にやまもすると傾き流されかける弱い人間ですが、そうである自分についてよく知りながら、信念を持って仕事をしていきたい。そういう戒めと希望を与えてくれる大切な一冊です。

● 素人のように考え、玄人として実行する

大学院生のころ、なんとなく手に取って読んだ本ですが、現在の研究生活においても、このタイトルの通りのスタンスを持ち続けています。人間工学/ヒューマンファクターズ分野は、生身の人間が動く生活や仕事の実際の場に近い研究テーマが多く、そういう意味ではアイデアは分かりやすい方がいい。一方で、この分野にはセオリー的な手法は基本的にはなく、情報科学や統計学、心理学、生理学など他領域の知識や方法を、そのテーマに応じて合理的に適用することで課題遂行を図ることが多いため、それら他領域の知識や方法も、そこでの専門的な手技、相場感を持って扱うことがしばしば必要になります。このタイトルの文言は学生を鼓舞するときにもよく言います。ちなみに、もう一つ学生によく言うのは、「明日やろうはばかやろう」です。

● ヒューマン・ファクター

原版は1987年に書かれた古い本ですが、いま手にとっても、「ヒューマンファクター」っておもしろいなあと読み進めてしまいます。現代の航空の安全性は確率的にも極めて高いことは言うまでもありませんが、それが決して航空機システムの性能の高度化によるものだけではなく、パイロットやキャビンアテンダント、管制官、その他地上スタッフを含めたヒューマンファクターの発展の上に立っているのだということに改めて思わされます。

● 誰のためのデザイン？

学部でヒューマンファクターズの授業を受けていたころ、日吉の図書館で出会った本です。なぜ、人間工学/ヒューマンファクターズの領域が、製品デザインと産業安全という、一見全く異なるように思われる課題を両手に扱うのか、この本を読むとよくわかります。ノーマンの解釈には賛否両論がありますが、この分野に関心を持つ入り口としては、良本だと思います。